

医療日

vol.104

令和3年1月15日

医療法人
長谷川会

湘南ホスピタル

藤沢市辻堂3-10-2

TEL. 0466-33-5111

発行責任者：有泉 義一



初春の輝き（逗子海岸 渚橋周辺） 撮影：永田 希江子

理念

人を暖かく迎える医療

地域の健康の守り手 高齢者をささえる医療 心を大切にする医療

基本方針

地域包括ケアシステムの一員として
役割を果たす。

- 1 良質な地域包括ケア病床と医療療養病床の提供
- 2 外来機能の充実
- 3 居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションの強化
- 4 地域とのつながりの強化

104号内容

新年のご挨拶

- 湘ホス部署紹介「地域連携室」
- 特集「認知症治療の進化」
- コロナ禍の防災訓練に参加しました など



新年のご挨拶



理事長・院長
木原 明子

明けましておめでとうございます

令和3年の、穏やかな新年がスタートいたしました。厳しい寒さながら、湘南の豊かな日差しに恵まれ、陽溜まりでは驚くほど早く春の野草が花を咲かせています。当院の花壇も準備して下さる方のご厚意により、12月のうちに新春の彩りに整えられました。また年末には、医療従事者へ励ましのお花も頂戴し、感謝のうちに待合室に飾らせて頂いております。花の色・香り・存在がしばし目の保養・心の安らぎ・元気のもととなれば幸いです。

湘南ホスピタルは、外来診療・病棟診療・在宅医療の3つの役割を、新年もさらに充実させてまいります。病棟では、地域包括ケア病棟では理学療法士・作業療法士が身体のリハビリに力を入れ、言語聴覚士が嚥下機能回復を目指して訓練をおこない、在宅復帰・退院をめざしてまいります。

医療療養病棟ではより長期の療養が必要なかたの治療・看護・ケアをさらに充実させてまいります。

昨年は、新型コロナウイルス一色に塗られたような一年でした。これは今なお続いておりますが、このような時だからこそ「地域の皆様とのつながり」は何よりも大切であると感じております。大切な情報は地域の皆様と共有しながら、医療・介護・福祉関係者の皆様、そして藤沢市・茅ヶ崎市等行政との連携・協力を大切にしながらこの一年を歩んでまいりたいと思います。皆様の健康が守られますようお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



居宅介護支援事業所
ケアポート湘南 管理者
関 明美

昨年は、新型コロナウイルスの见えない霧が瞬く間に世界中を覆ってしまい、我慢の多い1年だったように思います。一向に晴れる気配のない霧の中で、皆様が不安なく介護保険をご利用していただくために、ケアマネジャーとしてできることを考え続け、皆様の健康と生活を守るための努力を続けていきたいと思っております。

今年はこの霧が晴れ、皆様とマスクを外した笑顔で話ができますことを心より祈っております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



コスモス訪問看護ステーション
管理者
守田 加奈子

訪問看護では、看護師と理学療法士が協力しながら、ご自宅や施設で療養されている方々の健康の守り手として、医療サービスを提供させていただいております。昨年から新型コロナウイルスの影響で、これまでの生活環境ががらりと変わってしまい、不安になったり体調に変化があったり、心身共に影響を受けられる方がとても多いと思います。まだ分からない事の多い状況ではありますが、私達は日々感染予防と体調管理を行い、日常のサービスが提供できるよう努めております。そして、皆様が安心して笑顔の多い一年になりますよう、お手伝いさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

部 署
紹 介

地域連携室

その名の通り

「地域」との連携をスムーズに



地域連携室の職員は4名(相談員3名、渉外担当1名)。相談員は看護師、医療ソーシャルワーカーなどがそれぞれの専門性を活かしながら、電話対応・面談・カンファレンス・院内外調整などと、日々奮闘しています。



相談室での面談



カンファレンス

私たち湘南ホスピタル「地域連携室」の主なミッションは3つ。

- ① 2つの異なる入院病棟(地域包括ケア病棟:在宅への退院支援、医療療養病棟:病院での長期療養)への入院・転院相談を受けてから院内調整、受け入れ(入院)までをスムーズに行うこと
- ② 医療福祉相談窓口として入院された患者さんとご家族の今後の入院・療養生活・経済面などの不安を少しでも和らげること
- ③ 患者さんが安心して退院できるように、地域や多職種と連携して、退院支援を行うこと

地域連携室はその名の通り、「地域」との連携役です。

「地域」とは、地域にお住まいの方はもちろん、地域の病院(やはり地域連携室。病院により名称は異なりますが)、診療所の先生方、介護施設の職員、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネジャー、行政などと様々です。

私たちに課せられたミッション遂行のため、そうした「地域」の方々と積極的にコミュニケーションをとることも大切な業務の一つです。

患者さんのため、地域のため

地域連携室 看護科長 関本 恵美子

前述の入退院相談、医療福祉相談に加え、苦情の窓口、院内ボランティアの受け入れ、地域に向けた研修会や講演会・イベント実施や参加(コロナ禍の現在ではなかなか実施できませんが…)なども行っています。

ご相談はお電話でも受け付けています。どうぞお気軽に「地域連携室」へご連絡ください。



電話 0466-33-5111(代)

相談受付時間 平日 9:00~16:30 / 土曜日 9:00~11:30

場所 リハビリテーション室手前



認知症治療 の進化

神経内科

あん とく やす のぶ

安徳 恭演 医師

平成11年(1999年)にアリセプト®(ドネペジル)が発売され、平成23年(2011年)になると、レミニール®(ガランタミン)、イクセロンパッチ®・リバスタッチ®(リバスチグミン)、メマリー®(メマンチン)と3つの薬が立て続けに発売され、神経内科(脳神経内科)領域において、その診療内容が劇的に変わった疾患があります。認知症です。この4つの薬は、認知症で起きている神経細胞の脱落を防ぐ作用はありませんが、残った神経細胞を活性化させて、物忘れの進行を遅らせる作用があるとされています。

さて、これらの4つの薬は、作用機序から2種類に分けることができます(表1)。

〈表1〉抗認知症薬*

*()内は先発医薬品名

1	コリンエステラーゼ阻害薬	● 脳を活発にする
	ドネペジル(アリセプト®)／ガランタミン(レミニール®) リバスチグミン(イクセロン®, リバスタッチ®)	
2	NMDA受容体拮抗薬	● 脳を穏やかにする
	メマンチン(メマリー®)	

一つは、アセチルコリンという化学物質が減るのを防ぐ薬です。アセチルコリンは脳のネットワークを働かせるのに必要なもので、認知症の患者さんでは、それが減少しています。そのため、それらの薬を服用すれば、ある程度、その減少を補うことができることになります。そして、その作用を持つのが、アリセプト®, レミニール®, イクセロンパッチ®・リバスタッチ®の3つの薬です。イクセロンパッチ®とリバスタッチ®は違った商品名ですが、同じ薬です。主に軽症から中等度の物忘れの患者さんに投与され、活動性を増し、進行を遅らせる作用を持っていますから、意欲の低下している方に適した薬です。



もう一つの作用機序を持つのがメモリー®で、それは、認知症の患者さんの脳内で起きているグルタミン酸という物質の乱れを抑えることで、脳内ネットワークの働きを整え、神経細胞を保護すると言われています。この薬は、中等度以上に物忘れが進んだときに使われる薬で、一般には、アセチルコリンを補う薬と併用されることが多いかと思います。アセチルコリンを補う薬が脳を元気にするのに対し、メモリー®の方は、むしろ患者さんの気分を落ち着かせる作用があるのが特徴です。ですから、攻撃性がみられ、暴言・暴力などが目立つ方に効果を発揮する薬です。



認知症には、やったこと、聞いたことなどをすぐに忘れる、季節、日付や場所を忘れる、道具が使えない、料理ができなくなるなど、「中核症状」と呼ばれる症状があります。一方、認知症に伴う行動や心理面の症状、いわゆる「周辺症状」と言われるものがあります。具体的に言えば、ありえないことを口走る、周りの人には聞こえない・見えないものが見える、道に迷う、興奮する、攻撃的になるなどの症状のことで、介護者の負担をさらに増やすことになるやっかいな症状です。

前記の4剤が発売される前は、薬の投与は、この周辺症状に対するものが主体でした。投与されていたのは、抑肝散や抗精神病薬などです。それが、効果は限られるとは言え、中核症状に対しても処方できる薬が出てきたのですから、認知症診療が新たな段階に入ったことになるわけです。

ただし、認知症において、現在の薬剤による治療は、あくまで補助的なもので、それ以外に、脳を元気にするように生活環境を整え、また物忘れを悪化させる要因を取り去り、周りとのコミュニケーションがうまくいくよう

調整することがより重要だとされています（例えば、介護者は、物忘れのために起こってくる失敗を上から目線で指摘するなどせず、プライドを尊重し、笑顔でさりげなくサポートすると、症状は改善しやすいと言われています）。また、甲状腺機能低下症や生活習慣病、特に糖尿病や高血圧などは認知機能低下を招きやすいと言われています。こういった併発症の治療も必要となります。

厚生労働省の研究班の調査によりますと、2012年時点で65歳以上の高齢者のうち認知症を発症している人は462万人で、それが2025年には730万人に増えると、推計されています。そして、患者数の増加につれて、医療における認知症診療の比重がますます高まっていくことになるのは間違いないと思われ、今のままでは、治療や介護にかかるコストもさらに増えていくことになります。それを解消するのに、現状の認知症治療薬程度の効果ではまだまだ不十分で、さらなる進化が必要と思われます。

一方、世界各国の製薬メーカーによる近年の新薬開発研究の状況を見てみますと、現在、100を超える治療候補薬が治験中であり、物忘れに対する薬の開発目的も、従来の進行抑制から発症抑制へと変わってきています。ですから、いずれ近い将来、もっと根本的な治療薬が開発され、認知症診療がさらに新たな段階へ進むことが期待できるものと考えます。



安徳医師の **診察日** ※予約制になります。

● **神経内科／もの忘れ外来**

毎週 月曜日（午前・午後）・火曜日（午前）



地域活動報告2020

コロナ禍の防災訓練に参加しました

11月28日(土)に辻堂地区防災協議会主催による防災訓練『コロナを踏まえた、避難施設運営トレーニング』が行われ、当院は「PPE訓練」の講師として参加しました。

「PPE」とはPersonal Protective Equipment: 個人防護具。(以下、PPE)マスク・ゴーグル・フェイスシールド・手袋・ガウンなど感染から身を守るための装備のことを指します。



講師の小林看護部長から、まず感染症についての話。大切なことは「感染しない・媒介者にならない」こと。感染しないためには、身体の中にウイルスを入れない、手で顔から上を触らないようにする、手洗いや手指消毒の徹底をすることなどをお伝えし、手洗いの仕方をチューリップの歌に合わせて、当院看護師と一緒に皆さんと確認しました。そしていよいよPPE訓練です。コロナ禍で感染対策物品は品薄・高騰(マスクはだいぶ安定してきました)が依然として続いています。ガウンも正規のものはなかなか手に入らないことも想定して、レインコートで代用。「理想」と「現実」を取り入れた訓練になりました。

さて実際にPPEの着脱です。きちんと正しく身に着けることはもちろんですが、重要なのは脱ぐ時。「外側表面は全て汚染されている」という前提のもとに、汚染されている外側を触れないように脱ぐための順番とポイントを看護師によるデモンストレーションと共に説明しながら、実際に参加者の方に着脱を行ってもらいました。

当日は全部で6訓練が行われ、その様子はWEBでライブ配信されました。辻堂地区防災協議会Facebook、YouTubeに動画がありますので是非ご覧ください、辻堂地区での防災意識の高さを感じると共に、もしもの災害に備えていただければと思います。

今回、訓練講師として参加し全ての訓練を地域の皆さんと行うことで、辻堂地区の「防災」を築いていく一員になれたこと嬉しく思います。





セイム・セット

あけておめでとうございます。
うし年パズルをお楽しみください。



問題

7種類の絵が5つずつセットになっていますが、
同じ5種類のセットは、1組（2セット）しか
ありません。何番と何番でしょう？

応募方法

答え、住所、郵便番号、氏名、フリガナ、年齢、
電話番号をはっきり書いて、待合室横の投書
箱に入れるか、ハガキで送ってください。
ハガキの場合の宛先は当院「麗日編集部」
まで。1人1枚に限ります。

※なお、読者の皆様からお預かりした個人情報は、
当院が責任を持って管理いたします。

●賞金

正解者の中から1人に1万円、2人に
各5千円、20人に図書カードを抽選で。

●締め切り

令和3年5月10日

●発表

賞品の発送をもってかえさせていた
だきます。

103号の答え 「9」

外来診療担当表

赤字 … 予約制

※予告無く変更することがあります。予めご了承ください。

■ 2021.1.15現在

	月	火	水	木	金	土
午前	あんとく やすのぶ 安徳 恭演 神経内科	あんとく やすのぶ 安徳 恭演 神経内科	ひろい なおき 廣井 直樹 糖尿病内科・内分泌内科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科	まつい かずこ 松井 和子 内科・神経内科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科
	ひろい なおき 廣井 直樹 糖尿病内科・内分泌内科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科	まつい かずこ 松井 和子 内科・神経内科	こう せん 黄 沾 消化器内科	こう せん 黄 沾 消化器内科	いしい よしあき 石井 吉秋 内科
	つつみ なつこ 堤 菜津子 内科・消化器内科			つつみ なつこ 堤 菜津子 内科・消化器内科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科	よしだ ゆうじ 吉田 勇治
						栄養相談 (第1~4週) 管理栄養士
午後	あんとく やすのぶ 安徳 恭演 神経内科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科	とみなが ようすけ 富永 陽介 精神科	きはら あきこ 木原 明子 内科・呼吸器内科	いしい よしあき 石井 吉秋 内科	
	おくの しげこ 奥野 滋子 内科	かたくら せいご 片倉 誠悟 (第3週のみ) 内科・呼吸器内科	いしい よしあき 石井 吉秋 内科	きとう しょうぞう 鬼頭 昭三 (第1週のみ) 神経内科		
				すずき としひこ 鈴木 俊彦 循環器内科		
				栄養相談 管理栄養士		

腰や関節の痛み、手足のしびれ等の症状の方

内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／糖尿病内科／内分泌内科／神経内科／精神科



特殊外来・検査など	実施日	※予約制です。
禁煙外来	火曜(午後)、木曜(午後)、金曜(午前)、土曜(午前)	
もの忘れ外来	月曜(午前/午後)、火曜(午前)	
嚥下造影検査	第2・4土曜(午前)	
内視鏡検査	火曜(午前/午後)、木曜(午前/午後)	
特定保健指導	平日 9:00~16:30 土曜 9:00~11:30	

湘南ホスピタルからの **お知らせ**

以下の症状に該当する方が当院の受診を希望される場合は、**必ず事前に電話連絡の上、職員のご案内する方法で** ご来院くださいますようお願いいたします。

- 発熱 ●せき ●のどの痛み
- 息苦しさ(呼吸困難)
- 強いだるさ(倦怠感)
- 風邪の症状が続く
- 新型コロナウイルス感染者と接触したなど、感染が心配な方

皆さまが安心して受診できるためのご協力をお願いいたします。



HOSPITAL 医療法人 長谷川会

湘南ホスピタル

TEL. 0466-33-5111

〒251-0047 藤沢市辻堂3-10-2

診療時間	午前 9:00~12:00 (受付 8:00~11:30)
	午後 13:30~17:00 (受付 11:30~16:30)
電話問合せ	8:45~11:30 / 13:15~16:30

休診日 土曜午後・日曜・祝日

外来診療の変更・休診等については、当院ホームページでご確認ください。

湘南ホスピタル 検索
<http://www.shohos.org>

